

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園
平成28年度の教育活動等に対する学校評価書

平成29年2月27日実施

学校法人鈴木学園しらゆり幼稚園長

山本 環

学校法人鈴木学園しらゆり幼稚園学校関係者評価委員長

鈴木 麻美

学校法人鈴木学園しらゆり幼稚園学校関係者評価委員

山本 智美・勝又 由紀子・竹内俊二

教育理念	真に自由に個性を伸ばしながら正しい人間形成を目指すには、優れた教育者との出会いと適切な環境が必要である。 幼稚園は、子ども達が初めて社会生活を体験する場であると同時に、生涯を通じた財産である様々な能力の礎を築く大切な時期である。 しらゆり幼稚園は健康と情操教育を重視した教育に努め、仲間と協力しながら自然体験や社会経験を重ね、五感を使って感じ取り、考え、主体的に行動することを通して、個性と能力を伸ばす教育をおこなう。
教育方針	孝友三心 一、親を思う心 一、友を愛する心 一、自分をみつめる心
教育目標	一、体の丈夫な子 一、心の豊かな子 一、よく考える子 自然に恵まれた教育環境のもと、『孝友三心(親を思う心・友を愛する心・自分をみつめる心)』を建学の精神とするとともに、『健康は一生の宝』という言葉を念頭に置き、体の丈夫な子、心の豊かな子、よく考える子を育てることを園の目標として教育に努める。
本年度の重点目標	『 身近にある環境を生かし、遊びや活動を充実させる 』 ◎子ども達が伸び伸びと生活し成長しあえるよう、施設・設備を有効活用し、活動やあそびがより発展していくよう環境を整えたり、再構成する。 ◎外国人教師とのふれあいができるよう積極的に機会を設けたり、英語に親しめる環境を整える。 ◎縦割り保育の内容を充実させ、更に異年齢の子ども達がかかわりを楽しめるように工夫する。
財務	○消耗品費、光熱水費の削減を心掛ける ○入園児を増やすための様々な施策を検討する。
顧客	○鈴木学園独自の行事、菜園やファーム、英語教育、数の概念の学習など、しらゆり幼稚園の特色を保護者や外部者に発信し、アピールする。
業務プロセス	○園の自然を利用した伝承あそびや集団あそびを多く取り入れる。
学習と成長	○一年に一人一回以上、外部研修に参加する。 ○自分の不得意分野の克服に心掛ける。

自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

* 自己評価は、4(はい)、3(大体あてはまる)、2(あまりあてはまらない)、1(いいえ)の数値で表す

* 委員会評価は、4(十分に成果があった)、3(成果があった)、2(少しの成果があった)、1(成果がなかった)の数値で表す

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
I 保育の計画性	園の教育理念や教育目標を理解し、幼児の実態に即した指導計画を作成し、活動の展開に応じて幼児が主体的に関わりたくなるような環境を再構成している。 自分の保育に対し、常に評価・反省をおこない、次の保育に生かせるようになっている。	3.2	昨年度に引き続き、【教育課程の編成】を重視して指導計画を見直し・作成したことにより、重点目標も盛り込んだ指導を展開することができたと思われる。 重点目標に取り入れた《縦割り保育(縦割りランチ)》を年間を通じて実施することにより、日常的に異学年の子ども達が会話する姿がみられるようになった。今後も内容を検討し、充実した縦割り保育を計画していきたい。	4	毎月発行される《しらゆりだより》に保育の予定や目標が記載されているので、保育の様子がよくわかる。 恵まれた自然、充実した設備等、優れた環境を活用し、理念や目標をよく理解した指導が行われていると感じる。 縦割り保育の通年実施によって、他学年とのふれあいに刺激を受けて、より楽しい園生活を送っているように思える。
II 保育の在り方、 幼児への対応	怪我や事故、体調管理には特に気を付け、年齢に応じた適切な環境構成や言葉がけを行っている。 一人ひとりの幼児をよく観察し、発達の姿や課題について見通しを持って理解している。 幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方を工夫し、幼児が行き詰っている時に適切な援助をしている。	3.4	昨年に引き続き、登園時と降園時の視診を特に大切にし、子ども達の体調の変化や怪我の有無を確かめ、発熱などが認められた場合は速やかに保護者に連絡することができている。 幼児にあわせて同じように動いてみたり、同じ目線に立ってものを見つめることにより、幼児が自ら考えたり工夫したりできるような環境の再構成につとめている。	3.3	子どもの体調などには常に目を配り、速い対応を取っていると思われる。おたよりや一斉メールで流行している病気の報告や注意喚起をされていてよい。インフルエンザなどの流行時は自由登園等の措置でも良いと思われる。 園児の作品を見て、たくさんの素材を使ってあり、子どもが考えて選ぶ環境が整っていると感じる。
III 教師としての資質 と能力	全ての幼児について教職員同士で話し合い、共有理解をするように心がけている。 幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにしている。 保育外でも教師としての誇りと自覚をもった言動をこころがけている	3.6	今年度は教員同士が互いの保育を参観する機会を設ける計画であったが、実施できずに終わってしまった。 次年度は保育を参観しあい、自己の資質向上に役立てたい。 幼児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感じ、幼児の成長を自分の喜びと感じている。 幼稚園教諭として自覚とプライドを持ち、園の決まりを守っている。	4	互いの保育を参観する企画はとても興味深いのでぜひ実施していただきたい。 年齢の若い先生が多いが、保護者に対してもきちんとした対応ができている。 担任クラスの子もだけでなく、他クラスや他学年の子どもの様子や出来事を把握している為、先生同士の連絡がしっかりされていることがわかる。
IV 保護者への対応	保護者からの相談などには心を開いて、よく話をきくように心がけている。 保護者・園児の個人情報はしっかりと管理し、漏えいしないように注意している。 クレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告・連絡・相談している。	3.5	保護者の住所や電話番号などの個人情報の管理義務を遵守できていると思われる。 フェイスブックやブログを活用して日々の子どもの様子を発信できるよう努めている。 携帯電話の一斉メールを活用し、連絡を密にとっている。 保護者から相談があった場合は個別に面談するなど、不安を取り除けるよう努めている。	3.6	フェイスブックやブログは子どもたちの様子がわかり、子どもと一緒に見ることで、より一層園での様子が分かり、会話も生まれてありがたいです。 保護者にとって、相談しやすい環境ができていると思う。 保護者からのクレーム(意見)とそれに対する園の対応について、可能なものは公開してほしい。 行事前日の確認メールは、とても助かる。

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
V 地域の自然や 社会とのかかわり	地域の人々とかかわりを持つように心がけている。 地域の自然や道路の安全状況などについて理解するよう努めている。 小学校との連携に努めている。	3.1	園外散歩などに出かけた際は、一般の人々に積極的に挨拶するなど関わるよう努めているが、近隣住民とのふれあいは少なかった。 日頃から避難訓練や交通指導などを実施し、災害や事故からの身の守り方を伝えている。しらゆり菜園に出かける際は特に交通安全に注意している。 地域の小学校・中学校との交流学习を取り入れ、連携に努めている。	3.6	園外散歩や社会科見学は、幼稚園の外の自然や人、社会に直接触れる良い機会となり、良い経験、勉強となっている。 年長児の歩行訓練などは小学校生活に向けて役立っていると思う。 避難訓練をしっかりとおこなっているため、災害が起きた時の行動が身についている。 保護者の清掃作業を園内だけでなく、園の周りまで範囲を広げてみてはどうか。
VI 研修と研究	園内研修や外部の研修会には自己課題をもって進んで参加している。 発達障がい、アレルギーなど今日的課題に関する自己研修に取り組んでいる。 災害・不審者侵入など危機管理について自己研修を行っている。	3.0	教職員一人ひとりが年に1回以上は外部研修に参加し、園内研修で報告し、保育の向上に努めている。 幼稚園全体の目標とは別に《個人目標》を設定し、資質向上に努めているが、取り組み状況に差がある。 不審者侵入や火災避難訓練は警察や消防と連携して実施している。次年度は防災訓練を取り入れていきたい。	3.3	日々の保育に加え、外部研修へ参加されていて、先生方の保育に対する向上心がうかがえる。今後は海外研修も視野に入れてあるようなので、より一層の保育の向上に期待したい。 保護者にも子育てで役に立つような情報をもっと教えていただけたらうれしい。 防犯や避難訓練を実施しているので、より安心感をもって子どもを通園させることができる。
VII 本年度の目標	身近にある環境を生かし、遊びや活動を充実させる	2.8	既存の施設・設備・遊具・教具を有効活用して、子ども達のアそびや活動がより発展するように環境を整えたり、再構成することに努めることができた。 縦割り保育の内容がマンネリ化してきているので、さらに楽しめるような内容を工夫していきたい。 園の自然を利用した伝承あそびや集団あそびを取り入れることがあまりできていない。	3.6	色水や落ち葉を持ち帰ったり、園庭にある果物を食べたり、虫を見つけたりと園庭だけでもたくさんの自然や四季を感じる事ができていると思う。 英語指導だけでなく、登降園時や行事などでも英語教師が子どもと関わり触れ合う機会が多くなっていると思う。 大きな行事の練習がある上、お茶作法会やマナー教室、交通安全教室などもあり、遊びの時間が少し少ないと感じることもある。
総合評価 及び 今後の課題	<p>今年度も新規採用教諭が2名いたが、園内研修などを通じて、しらゆり幼稚園の教育方針にのっとった教育ができたと思われる。</p> <p>毎日の打合せと、毎月の重点目標取組チェックを行うことにより、教職員全員が同じ目標に向かって努力することができている。</p> <p>菜園活動や食育活動は充実して実施できたが、自然物を利用した遊びの広がりがみられなかった。次年度は遊びが広がるよう工夫していく。</p> <p>次年度は新しい複合遊具の設置を計画しているので、遊具を活用した年齢に即した運動あそびを展開し、運動能力を伸ばす取り組みを検討していく。</p>				
学校関係者評価 委員会からの意見	<p>先生方が自身や保育の向上を目指し、大変努力をされていることを表だって知ることがなかなかないが、園児の園での様子を見ると、良い環境と信頼のおける先生方に囲まれ充実した幼稚園生活を送れているのだと実感できる。</p> <p>外遊びの時間や、園外散歩に出かける回数を増やし、子どもたちがより自然の中で充実した時間を過ごせるようにしてほしい。</p> <p>園内外すべてが行き届いた清掃がされ、きれいで衛生的で気持ちのよい幼稚園と感じる。来年度の複合遊具の完成を保護者も楽しみにしているので、大きな怪我のないようにあそび、個々の能力を伸ばしてほしい。</p> <p>様々な体験、経験を通し、楽しいことばかりではなく、頑張りが必要なことなども教えてくださり、体も心も健康な子どもへの成長につながっている。</p>				